

総会報告

日本菌学会 2019 年度評議員総会 議事録

日時：2019 年 5 月 24 日（金）15：00－17：00

場所：秋田県立大学 大学院棟 M109 室

出席者（順不同、敬称略）：

会長 山岡裕一 副会長 矢口貴志
 理事：岡根 泉（庶務）、清水公德（庶務）、田中千尋（企画・普及）、中島千晴（会計）、山田明義（国内集会）、玉井 裕（日本菌学会会報編集責任者）、服部 力（編集）、名部みち代（国内集会）
 監事：鶴海泰久、田中一新
 次期会長・副会長候補 田中千尋、矢口貴志 次期理事候補 清水公德（庶務）、田中栄爾（編集）、糟谷大河（国内集会）、谷口雅仁（国内集会）、中島千晴（AMC）、伴さやか（庶務）、本橋慶一（会計）、山田明義（日本菌学会会報編集責任者）、細矢 剛（広報・企画・教育・普及）、保坂健太郎（国際集会）；次期幹事候補 折原貴道（庶務）。
 代議員：岡田 元、岡根 泉、折原貴道、清水由巳、玉井 裕、中桐 昭、野中健一、吹春俊光、星野 保、前川二郎、升屋勇人、松澤哲宏、山岡裕一

会議成立の確認：総会の開催に先立ち、評議員の 23 名出席、10 名の委任状により本総会の成立が確認された。2018 年度までの役員から 2019 年度の次期の移行期につき、新旧両方の役員及び役員候補が出席し、2018 年度までの報告については旧理事が行い、続いて新理事が承認された後、2019 年度事業計画については新理事から提案された。

【報告事項】

1. 庶務関係（清水・岡根 庶務担当理事）

- 1) 会員動向：第 2 回理事会と同じ。
- 2) 理事会・総会・メール理事会・持ち回り総会等の開催報告：第 2 回理事会資料と同じ。
- 3) 名誉会員の推挙、日本菌学会授賞者および授賞論文の選考について選考委員から報告された。
- 4) 役員選挙により、次期会長候補、副会長候補、理事候補 5 名、代議員 25 名が選出された。
- 5) 業務委託契約の更新：勝美印刷及び網野誉税務会計事務所との業務委託契約の自動更新が、理事会で承認されたことが報告された。
- 6) 2018 年度業務・会計監査において、指摘等が発生しなかったことが報告された。

- 7) 各種規則の修正：第 2 回理事会と同じ。

2. 国内集会関係（山田・名部 国内集会担当理事）

第 2 回理事会の報告事項と同じ資料に基づく。

3. 国際集会関係（代読 清水理事）

- 1) 日台国際シンポジウム・ワークショップ開催の報告
- 2) AMC2019 参加補助の実施について、昨年度の理事会で承認された内容で報告された。
- 3) 国際菌根性食用キノコ学会 IWEMM10 について、日本菌学会が共催することを昨年度の理事会で承認・決定済みと報告された。

4. 企画・普及関係（田中千・太田 企画・普及担当理事）

第 2 回理事会の報告事項と同じ資料に基づいて、2018 年度の活動報告がされた。

5. 編集関係（玉井 編集担当理事・服部 編集委員長）

第 2 回理事会の報告事項と同じ資料に基づいて、2018 年度の刊行状況の報告がされた。

6. 会計関係（中島 会計担当理事）

2018 年度の決算報告では、昨年度の払い込みで請求が間に合わず 4 月に繰り越したものは支払いに含まないことが変更となった（資料 1-1、1-2）。

7. その他

- 1) 日本菌学会データベース委員会第 1 回理事会資料に基づき、細矢委員から 2018 年度の活動報告があった。
- 2) 日本分類学会連合との連携において、菌学会から細矢氏が連合代表となって加わっている。また、連合とともに日本植物分類学会が対応を始める「植物標本輸入問題の解決に向けた活動」を支援している。これは、植物防疫のルールが厳密に適用され、植物標本が乾燥し完全に死滅していることが証明されていなければ、輸入ができず没収になってしまう事態が問題となっている。植物寄生菌標本もその対象となり得る。
- 3) 科研費の中間監査を受け、評価 A であった。

8. 会計監査および業務監査（鶴海 幹事）

以上の活動事項について、2018 年度の本学会運営について監査を実施した内容が報告された（資料 1-1、1-2）。

【2019－2020 年度の役員選任】（資料 2）

理事候補者：5 名は選挙結果から：細矢 剛、糟谷大河、山田明義、保坂健太郎、清水公德。
 更に、会長に田中千尋、副会長に矢口貴志が選出済み。
 加えて上記理事候補者が推薦した 5 名の理事：伴さやか、

中島千晴, 谷口雅仁, 田中栄爾, 本橋慶一, 以上 12 名の選任が承認された。

監事候補として評議員から提案はなかったが, 山岡元会長より稲葉重樹, 大和政秀が候補として提案され, 意義なく承認された。

また, 国際集会担当幹事として AMC 専任理事を中島氏. 科研費申請についても専任することが特筆事項として説明され, 承認された。

以降, 田中新会長により議事進行。

新会長挨拶: 歴史ある菌学会の歩みを止めないように誓う。日本の菌学が世界に羽ばたけるように努力したいので, 諸先輩方のご指導・ご助力をお願いします。

【審議事項 (2019 年度事業計画案)】

1. 庶務関係 (清水 庶務担当理事)

資料 3 に基づいて説明があり, 承認された。

2. 国内集会関係 (糟谷 国内集会担当理事)

年次大会, 菌類観察会の本年度の詳細案及び次年度の素案について説明があり, 承認された。

3. 国際集会関係 (保坂 国際集会担当理事)

- 1) 総会資料では, 今年の台湾との合同シンポジウムは来年に延期する事, 今後は数か国合同で実施するなど, 次回以降の進め方を検討してゆくことが説明された。
- 2) AMC 参加補助については報告事項の通りだが, 補助の内容について審議された。現時点でまだ申込が来ていないため, 周りの学生会員に周知をお願いしたい。
- 3) IWEMM10 (国際食用菌根性キノコ会議) への後援について, 第 2 回理事会と同様に説明され, 審議, 承認された。

4. 企画・広報・教育・普及関係 (細矢 企画・広報・教育・普及担当理事)

資料 4 に基づき説明があり, 承認された。

アウトリーチ活動について, 細矢氏や博物館関係者に負担が集中している状況である。今後, 大学関係者も含め, より多くの方々に主体的に関わっていただきたい。

5. 編集関係 (田中栄爾 編集担当理事)

第 2 回理事会と同様の資料に基づき説明された。

1) オープンアクセス (OA) について

現在, 年間 3 報分の OA を科研費の予算から支出している。これまでは, 学会賞受賞論文 (レビュー) を優先的に OA 化してきた。昨年度は編集委員長が決定す

る論文 1 報だけが実施された。

これに次いで, AMC および IWEMM10 からの総説の OA 化を中島理事より提案された。科研費の中間評価において, OA の論文数が 1 報だけであった点がマイナス要因となっている。今後, 年間 3 報の OA 化は最低条件履行する必要がある。

2) 日菌報への英文記事の掲載について

日菌報投稿数の減少, 科研費の成果公表 (アジア新産種掲載および学会誌の国際化) およびインパクト・ファクターへの対策として, 日菌報に英文の新産報告記事を「資料 (刷り上がり 4 頁以内)」としての掲載を推進させる方針が前回の編集委員会および理事会で確認された。次の理事会で承認が通り次第, 速やかに編集委員会で投稿規定・投稿細則を改定し, 理事会に報告する。以上を踏まえ, 英文の新産報告記事を「資料」として日菌報に掲載することを審議した。投稿規定は Mycoscience に準ずる。

(質疑応答)

現在, 新産種報告の英語論文の投稿先が少なく, 受け皿を提供することは意義ある。博物館紀要などは博物館の試料を使った場合や所属研究員と共同研究の場合のみに限られている。また, 一般的に英語論文の閲覧数は多いため, 日菌報へのアクセス増加が期待できる, などの賛成意見が多く挙げられた。以下の項目が日菌報の方針として話し合われた。

- ・Mycoscience のクリエイティブ・コモンズ・ライセンス (著作権) について検討する必要がある。投稿規定に Mycoscience に投稿された新産種報告論文が日菌報に回される可能性がある旨を追加しなければならない。
- ・日菌報の英語論文には日本語の抄録を付ける。
- ・日菌報の英語論文は新産報告に限るが, 産地は日本に限らず, 海外も含める。
- ・方法論の論文等については同意見多数であればその方針としても良い。

更に議論が続いたが, 時間の関係もあり, 編集委員会・理事会で再議論し報告することとなった。

6. 会計関係 (中島 会計担当理事)

2019 年度予算案について審議がなされ, 原案通りに承認された。なお, 定款により, 会計は前年度に決定し理事会に提案するという形である。

(質疑応答)

法人化にあたって, 予算の繰越金の上限等の縛りはないのかという質問に対しては, あまりにも収入が多すぎる場合, 事業が拡大したとみなされるので課税対象となる可能性があり, 対応の必要が出てくるが, それ以外の場合は特にそのような制限はないと回答された。2018 年度

分は既に会計監査も修了し、会計士と税務署が事前に確認しているため、問題はなかった。

7. その他

1) 日本菌学会データベース委員会

委員の入れ替えを実施し、青木孝之氏、田中栄爾氏、中島淳志氏、服部 力氏、吹春俊光氏、細矢 剛氏の6名による体制で、現在のデータベースの維持・更新と再構成についての検討を実施すると提案され、承認された。

2) Mycoscience 契約変更検討ワーキンググループ

現在のMycoscienceの出版契約を見直す為に、編集長経験者や出版社との契約手続き経験者、および現理事

6名からなるワーキンググループを立ち上げ、理事会に諮りつつ検討及び対応を進めることが田中新会長より提案され、承認された。

(質疑応答)

編集システム (EVISE) のトラブルが多かった。同じ出版社の他の学会誌も同じ問題を抱えているのではないかと。また、日本支社がない、あるいは日本対応のスタッフが外国人で意思の疎通が難しかった等の意見が挙がった。OA化も検討項目として具体的な事情を調査し、様々な資料を集めて柔軟に対応したいと会長が方針を述べた。

以上。

(資料 1-1)

2018 年度 一般会計決算

収入の部

項目	2018 年度予算	2018 年度決算
会員費	8,392,800	7,771,000
正会員	6,350,000	5,599,000
学生会員費	503,800	446,000
海外会員費	209,000	396,000
賛助会員費	750,000	750,000
終身会費預金戻金	580,000	580,000
出版物販売	2,200,000	1,792,531
頁チャージ・超過ページ料	1,800,000	1,243,400
50周年記念出版、CD-ROM等	0	0
会誌等	400,000	541,131
DVD販売、新版用語集	0	8,000
60周年記念書籍	0	0
事業費戻入	0	0
学術振興会補助金	3,800,000	3,800,000
雑収入	1,325,600	1,429,911
預貯金利子	600	161
学術著作権協会	80,000	43,236
広告費	30,000	0
寄付	0	0
エルゼビア編集経費	1,200,000	1,193,500
その他	15,000	0
AMC開催関連前受金	0	188,262
科学技術振興機構	0	4,752
前年度繰越金	29,964,745	29,964,745
合計	45,683,145	44,758,187

支出の部

項目	2018 年度予算	2018 年度決算
事業費	2,643,000	1,814,248
年次大会補助	100,000	300,000
菌類観察会補助	50,000	50,000
学会賞	78,000	19,980
日菌報記事のPDF権利買取	0	0
菌類講座	25,000	76,370
国際シンポジウム	800,000	220,729
国際情報発信 (AMC)	1,500,000	1,139,457
教員向け研修	90,000	7,712
会報刊行経費	9,525,000	7,039,547
Mycoscience	200,000	0
日菌報編集費	25,000	0
Mycoscience 出版費	6,300,000	5,550,000
日菌報印刷費	700,000	729,682
ニュースレター編集費	450,000	594,989
一部オープンアクセス化費用	1,000,000	0
アジア地域新種等公表	350,000	38,664
雑誌等発送費	500,000	126,212
運営経費	5,755,000	3,923,595
役員選挙	280,000	304,814
業務委託費	2,500,000	2,023,920
ホームページ維持費	415,000	234,360
団体分担金	80,000	109,326
交通費	1,200,000	489,604
事務通信費	200,000	209,963
法人化維持費	100,000	70,000
会計士費用	180,000	150,000
諸雑費	600,000	266,700
各種手数料	200,000	64,908
予備費 (次年度繰越金)	27,760,145	31,980,797
合計	45,683,145	44,758,187

2018 年度特別会計決算

【終身会員費基金】

収入の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
前年度繰越金	5,291,613	5,291,613
終身会員費（新規納入分）	400,000	330,000
利息	0	0
合計	5,691,613	5,621,613

支出の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
一般会計繰入	580,000	580,000
予備費（次年度繰越金）	5,111,613	5,041,613
合計	5,691,613	5,621,613

【平塚基金】

収入の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
前年度繰越金	2,196,178	2,196,178
寄付	0	0
利息	0	0
合計	2,196,178	2,196,178

支出の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
平塚賞（楯代）	19,440	19,980
振込手数料	432	432
予備費（次年度繰越金）	2,176,306	2,175,766
合計	2,196,178	2,196,178

【菌学振興基金】

収入の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
前年度繰越金	6,442,291	6,442,291
大会余剰金		
寄付		
利息	0	0
合計	6,442,291	6,442,291

支出の部

費目	2018 年度予算	2018 年度決算
若手国際会議参加費補助	200,000	150,000
日韓シンポジウム	0	0
振込手数料	864	1,296
予備費（次年度繰越金）	6,241,427	6,290,995
合計	6,442,291	6,442,291

【財産目録】

資産	(円)
普通預金（UFJ）	10,942,899
普通預金（UFJ）任意団体	102,299
普通預金（ゆうちょ）	2,899,340
振替口座	37,165,871
普通預金（AMC）	188,262
合計	51,298,671

負債	(円)
前受け会費	5,809,500
正会員	4,554,500
学生会員	231,000
海外会員	44,000
賛助会員	650,000
終身会員費	330,000
合計	5,809,500

純資産の部	(円)
終身会員費基金	5,041,613
平塚基金	2,175,766
金額振興基金	6,290,995
合計	13,508,374

会計監査報告

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）
収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

平成 31 年 4 月 15 日

平成 30 年度 一般社団法人日本菌学会

監事

鶴海 泰久

田中 一新

(資料2)

2019～2020年度日本菌学会運営体制

会長：田中 千尋（京都大学）
副会長：矢口 貴志（千葉大学）
理事：糟谷 大河（国内集会），清水 公德（庶務），田中 栄爾（編集委員長），谷口 雅仁（国内集会），中島 千晴（国際集会），伴 さやか（庶務），保坂 健太郎（国際集会），細矢 剛（広報・企画・教育・普及），本橋 慶一（会計），山田 明義（日本菌学会報編集責任者），
監事：稲葉 重樹，大和 政秀
代議員：会見 忠則，青木 孝之，大園 享司，太田 祐子，岡田 元，岡根 泉，折原 貴道，佐久間 大輔，清水 由巳，白水 貴，田中 和明，玉井 裕，出川 洋介，中桐 昭，野中 健一，橋屋 誠，廣岡 裕吏，広瀬 大，吹春 俊光，星野 保，細江 智夫，前川 二太郎，升屋 勇人，松澤 哲宏，山岡 裕一
幹事：大前 宗之（広報・企画・教育・普及），折原 貴道（庶務），白水 貴（広報・企画・教育・普及），種山 裕一（国内集会），名部 みち代（国内集会），野中 健一（国内集会），廣岡 裕史（国際集会），矢島 由佳（国内集会），山口 薫（会計）

編集委員会

責任編集者：青木 孝之，小野 義隆，服部 力，矢口 貴志，山田 明義（日菌報担当兼務）
編集委員 (Editors)：会見 忠則，遠藤 直樹，遠藤 力也，岡根 泉，糟谷 大河，楠田 瑞穂，早乙女 梢，坂本 裕一，佐藤 博俊，清水 公德，白水 貴，田崎 裕二，田中 一新，田中 和明，辻 雅晴，辻田 有紀，出川 洋介，中島 千晴，長濱 統彦，西 大海，橋本 陽，廣岡 裕吏，深澤 遊，細矢 剛，升屋 勇人，松澤 哲宏，宮崎 和弘，宮本 敏澄，大和 政秀，山下 聡，山中 高史，Feng-Yan Bai，Gerald Bills，Sung-Oui Suh，Cedric Pearce，Roland Kirschner，Ewald Langer，James F. White, Jr.，Zhu Liang Yang
編集幹事：牛島 秀爾（日菌報担当），埋橋 志穂美，小長谷 啓介，小林 久泰（日菌報担当），高島 勇介，正木 照久（日菌報担当），山本 航平

ニュースレター編集委員：大前 宗之（編集委員長），安藤 裕萌，井本 敏和，木下 晃彦，小泉 敬彦，三輪 恵実

会則検討委員：岡根 泉，廣岡 裕吏，星野 保，細江 智夫

名誉会員選考委員：会見 忠則，青木 孝之，岡田 元，根田 仁，山中 高史

授賞者および授賞論文選考委員：太田 祐子，玉井 裕，中桐 昭，服部 力，前川 二太郎，村口 元，山岡 裕一

選挙管理委員：岡根 泉，清水 由巳

菌類データベース委員会委員：青木 孝之，中島 淳志，田中 栄爾，服部 力，吹春 俊光，細矢 剛

(資料3)

2019年度事業計画案 庶務関係

1. 概要

日本菌学会 63 回大会（秋田），2019 年菌類観察会（青森），シンポジウム，講習会，公開講演会の開催，学会誌の発行，各賞受賞者・受賞論文の募集，名誉会員候補者の推挙，功労会員の推挙

2. 会議の開催について

第 1 回理事会：2019 年 4 月 21 日 東京理科大学葛飾キャンパス

第 2 回理事会：2019 年 5 月 25 日 秋田県立大学秋田キャンパス

第 1 回総会：2019 年 5 月 25 日 秋田県立大学秋田キャンパス

第 3 回理事会：2019 年 11 月（予定）

第 4 回理事会：2020 年 3 月（予定）

第 2 回以降の総会：持ち回り（各賞授賞及び名誉会員推挙，その他の会議）

各委員会：適宜

その他，必要に応じてメールによる理事会を開催する。

3. 名誉会員候補の推挙，各賞候補，功労会員候補の募集について

名誉会員候補の推挙，日本菌学会賞，日本菌学会奨励賞，日本菌学会教育文化賞，日本菌学会平塚賞，日本菌学会会報論文賞の授賞者，および功労会員候補の募集を行う。

4. 業務委託・会誌の出版について

前年度に引き続き，勝美印刷に会員管理，出納業務，カード決済，サーバー管理運営等の業務委託を行う。前年度に引き続き，網野誉税務会計事務所に税理士業務，月次顧問業務を委託する。Mycoscience はエルゼビア社に，日本菌学会報及びニュースレターは，勝美印刷に出版委託を行う。ただし，エルゼビア社との契約を 2021 年以降も継続するかについて，検討する。

(資料4)

2019年度事業計画案 企画・普及・教育・広報関係

年次計画

1. 背景

- A) 一般社団法人として、学会員の公益に加え、社会に対する公益を考える必要がある。
(ア) ホームページの充実

B) 日本菌学会のプレゼンスの向上と発展(深め・広げる)を目指す。

(イ) 他学会との連携

(ウ) 後進育成

(エ) AMC

C) オープンサイエンス、市民科学などの新しい潮流へ対応する必要がある。

事業

No	形態	事業名 [内容]	場所・実施時期	担当
1	イベント	教員のための菌類講座	未定	未定
2	イベント	大学生のための菌類学入門	8/3, 科博自然教育園	細矢剛
3	イベント	中高生のための菌類講座	未定	未定
4	イベント	微生物生態学会との共催アウトリーチ ¹⁾ 菌学会の活動紹介・学生の交流促進など	12/8, 茨城県自然博	細矢剛 (+ ボランティア)
5	出版	ニュースレターの発行	継続	編集委員長; 大前幹事
6	HP	ホームページ充実と英文ページの作成 ²⁾	継続	企画普及担当理事・幹事
7	HP	SNS等を通じた情報発信	継続	白水幹事
8	宣伝	国際イベントでの宣伝活動 [パンフレットの改訂・増刷]	IMC等	

注

1) 微生物生態学会のアウトリーチは10周年を迎えるため、特別プログラムとなる予定。

2) データベース改良・学術コンテンツの充実・情報分野の紹介・ニュースレター一部コンテンツの公開の検討・賛助会員ロゴの紹介など。

3) 例年開催している自然史学会連合の講演会は本年度はなし。